人との間隔はできるだけ2メートル空けましょう。「密閉」「密集」「密接」を避け、こまめに手洗いを。外出時には症状がなくてもマスクを着用しましょう。

もっと知りたい！遊牧と草原の国

キルギス共和国 関連展示

▲キルギスの伝統的な遊牧民の移動式住居「ユルタ」

羽村市がホストタウンになっているキルギス共和国の伝統的な遊牧民の移動式住居「ユルタ」や民族衣装などを展示します。

来場者には、キルギス応援旗キットなどをセットにした「キルギス応援パック」をプレゼント！

※数に限りがあります。

日　時　12月9日(水)～13日(日)の午前10時～午後4時

※最終日は正午まで

会　場　ゆとろぎ展示室

内　容　ユルタや民族衣装、民芸品などの展示、キルギス共和国の紹介（映像）、多文化共生事業の紹介

問合せ　東京オリンピック・パラリンピック準備室㊥344

▲豪華な刺繍が美しい民族衣装

同時開催

図書館では、関連展示の期間に合わせて、キルギス共和国に関連する図書の展示を行います。

会　場　図書館1階展示コーナー

問合せ　図書館☎554－2280

東京2020大会を応援しよう！半年前イベントin羽村

千葉真子（まさこ）さん講演「命を輝かす人間」

千葉真子さん
アトランタ1996大会　陸上競技　女子10000m 5位入賞

日本女子長距離界のトップ選手として国際舞台で活躍した千葉真子さんに「山あり谷あり」であった競技人生から学んだ経験談や、人生を前向きに捉えていくには何が必要かなど、一流アスリートならではのエピソードを交えながら話していただきます。手話通訳があります。

日　時　令和3年1月17日(日)午後3時～4時30分

会　場　ゆとろぎ小ホール

定　員　100人（申込順）

対　象　市内在住・在勤・在学の方

申込み・問合せ　12月1日(火)～21日(月)に「氏名、電話番号、Eメールアドレス（持っている方）」を、電話、ファクスまたはEメールで、東京オリンピック・パラリンピック準備室㊥344へ

FAX 554－2921

✉s109000@city.hamura.tokyo.jp

※電話の場合は土・日曜日を除く。

◆事業にはマスクを着用して参加してください。

◆状況により、事業を変更または中止する場合があります。

講演の様子をリアルタイムで見ることができます（YouTube）

この講演を自宅などから視聴することができます。

※申込みは必要ありません。講演が開催される時間に、市公式サイトに掲載するURL（1月12日(火)から掲載）から視聴してください。

※インターネット接続料は視聴者負担です。Wi-fi環境下での利用をお勧めします。

▲市公式サイト

特に記載がない場合の受付時間は土・日曜日、祝日、年末年始を除く午前8時30分～午後5時です。申込みの記載がない場合は直接会場へ。費用の記載がない場合は無料です。

12月3日～9日は『障害者週間』

障害者週間は、障害者の福祉について関心と理解を深めるため「障害者基本法」で定められています。誰もが人格と個性を尊重し支え合う「共に生きる社会」に向けた環境づくりをしていきましょう。

図書館のハンディキャップサービスを利用してください

問合せ　羽村市図書館☎554－2280

視覚障害などで活字による読書が困難な方や、高齢または身体的理由で図書館への来館が困難な方へ、次のようなサービスを行っています。身近に該当する方がいたら、ぜひこのサービスをお知らせください。

■録音図書（DAISY（デイジー）版図書）貸出

対　象　市内または西多摩地域在住で、視覚障害により読書に支障のある方（ハンディキャップサービスの利用登録が必要です）

■点字図書・大活字本・朗読CDの貸出

大活字本は、活字の大きな図書です。

対　象　利用者カードを持っている方

■対面朗読サービス

ご要望の図書を対面で朗読します。利用の2週間前までに予約の上、図書館へお越しください。

対　象　市内または西多摩地域在住で、視覚障害により読書に支障のある方（ハンディキャップサービスの利用登録が必要です）

■宅配サービス　図書館の資料を自宅までお届けします。

対　象　市内在住で、肢体不自由2級以上の身体障害者手帳の交付を受けている方、または65歳以上で、身体的理由で図書館へ来るのが困難な方（宅配サービスの利用登録が必要です）

※詳しくは問い合わせてください。

館内展示　障害について理解が深まる図書や、活字による読書が困難な方のための資料を展示します。

期　間　12月1日(火)～13日(日)

会　場　図書館1階展示コーナー

オリ・パラ通信　46

障害者週間　特別号

今回のオリ・パラ通信は、東京2020大会を契機とした障害者理解の促進に向けた羽村市の取組みなどを紹介します。

パラリンピックの始まり

パラリンピック競技は、障害者を対象とした「もうひとつのオリンピック」です。始まりは、1948年にロンドン郊外の病院でリハビリテーションのために開催された、車いす患者によるアーチェリー大会でした。回を重ねて国際的な大会となり、1960年に第1回パラリンピックがローマで開催されました。

第2回（1964年）は東京で開催され、東京2020パラリンピック大会が開催されると、世界で初めて2回目の夏季パラリンピックが開催される都市となります。競技レベルは年々向上し、競技によってはオリンピックの記録や技術を上まわるものもあるなど、世界最高峰の障害者スポーツ大会に発展しました。

東京2020大会に向けた羽村市の取組み

パラリンピアンによるトークショー・体験会などをはじめ、さまざまなイベントでパラリンピック競技のミニ体験やパネル展示を行ったり、市の「まちづくり出前講座　パラスポーツ『ボッチャ（簡易版）』を体験してみよう！」を行ったりして、普及啓発活動に取り組んでいます。また「オリ・パラ通信」でパラリンピック競技種目の紹介なども行っています。

期待されるレガシー

これらの取組みを通じて、障害者理解の促進や障害者スポーツの振興が図られ、障害者の社会参加が拡大していくことを目指しています。

その第一歩として、パラスポーツ観戦や、羽村市での取組みに参加してみませんか！

問合せ　東京オリンピック・パラリンピック準備室㊥345

▲イベントでのボッチャ体験の様子